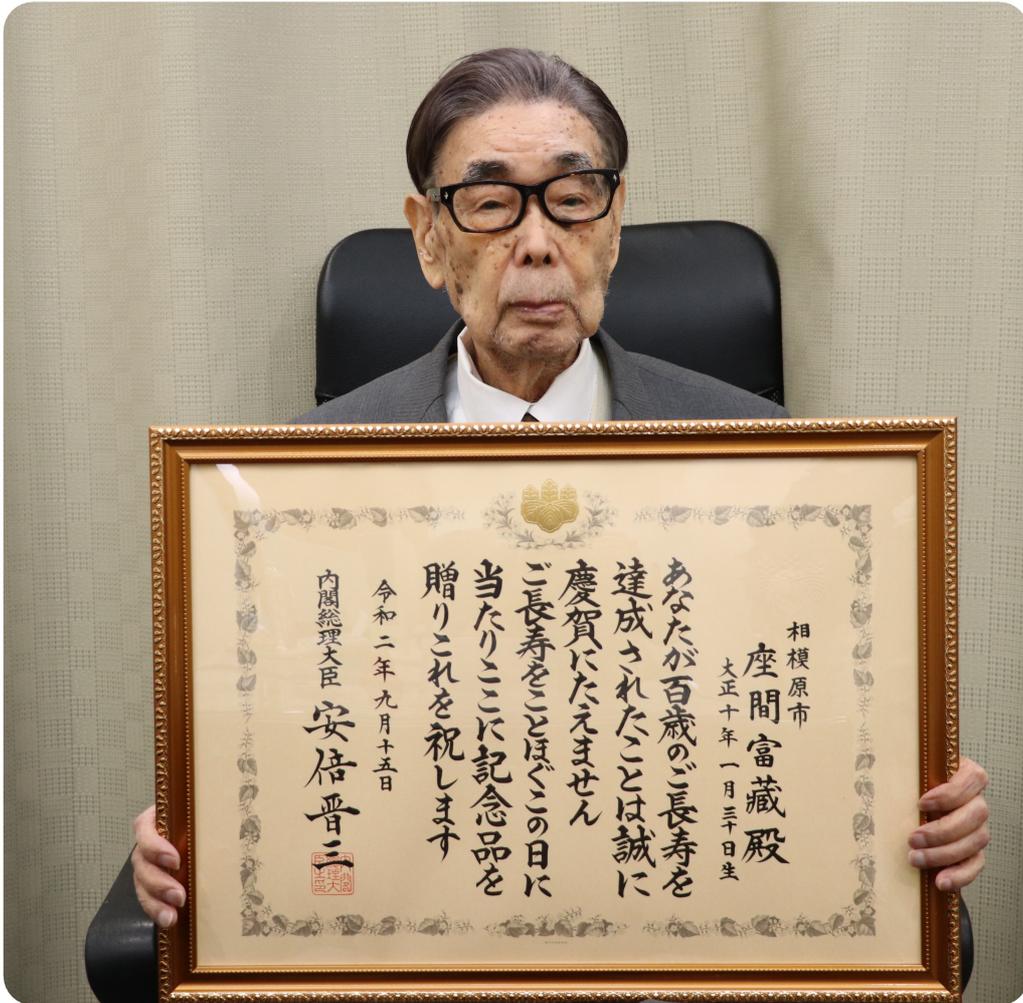


きっと見つかる、ずっとつながる笑顔の和

第18号  
2021年  
04月

# わげん便り



ワゲン福祉会 会長 座間富藏

## ～目次～

- 座間富藏会長百歳のご挨拶..... 1P
- 経営監理本部長より..... 2P
- 法人コロナ連携チームの取り組み..... 3P
- 法人経費削減チームの取り組み..... 4P
- 各事業所・新人研修の取り組み..... 5P
- 法人内事業所コロナウイルスへの取り組み..... 6P
- 「あの人 この人 こんな人」..... 7P



# 座間富藏会長100歳を向かえて



奥様と一緒にご自宅にて撮影

## 「100歳のご挨拶」

「私は貧しい家に生まれ、食事も寂しく、学問も不得意でした。このような私が皆さんの前で講釈をするなんておこがましいです。しかし一つだけいえる事は、目の前にある仕事を一生懸命真面目に取り組むと、必ず努力は報われるというのが経験してわかりました。今は、人の環境にも恵まれ、この法人にも恵まれており幸せです。皆様本当にありがとうございます。」

## 略歴

- |            |  |       |                    |
|------------|--|-------|--------------------|
| 1921年1月30日 | 神奈川県相模原市に生まれる<br>(実家は農家11人兄弟姉妹)                          | 1979年 | 定年退職(最終経歴として企画部参事) |
| 1934年      | 13歳にて府中競馬場でかなぐつ屋をしていた叔父の徒弟として働く。                         | 1980年 | 相模福社会理事就任          |
| 1937年      | 兄が出兵の為、実家に戻り農業を継ぐ。                                       | 1983年 | 相模福社会理事長就任         |
| 1938年      | 神奈川県初級事務員に就職する。その後、厚木消費生活センター長、厚木保健所次長、津久井商工会事務所所長などを歴任。 | 1995年 | ワゲン福社会理事長就任        |
|            |  | 1998年 | 総合相模更生病院理事長就任      |
|            |  | 1998年 | 永年福祉功労者として県知事表彰    |
|            |  | 2017年 | ワゲン福社会会長就任         |
|            |  | 2020年 | 百歳お祝い状内閣総理大臣より贈呈   |
|            |  | 2021年 | 現在に至る              |



社会福祉法人ワゲン福社会会長が、2021年01月30日を持ちまして100歳を迎えました。コロナ禍のため、相陽台ホームにて小規模ではありますが100歳セレモニーを行い、御利用者様や職員より花束の贈呈、奥様との記念写真などが贈呈されました。

# 2021年度のワゲン福祉会



ワゲン福祉会  
経営監理本部長

**飯村 芳樹**

皆さん、いつも本当にお疲れ様です。法人経営監理本部長の飯村です。

令和2年2月に始まった新型コロナウイルスによる当法人の経営基盤への影響は、皆さんのたぐいまれな献身をいただき、昨年度3月までに立案した「コロナ禍対応経営改善計画」の実施により最小限に抑えられました。大学病院を含めた名だたる医療機関や施設が賞与や手当が払えないという状況に陥る中、率先して取り組んできた当法人のチーム力・実践力によって安定的に事業継続できる環境を維持できたことは、ひとえに皆さんの努力とご協力の賜物であるといえます。心より御礼申し上げます。

しかしながら、コロナ禍は未だに続いており、今後のワクチンの活用が可能となった以降の情勢がどのように変化するかを注視しながら慎重に経営活動を続けていく必要もあります。今後の事業の継続性を担保するためにも、取引先金融機関からの借入金の返済に対応する積立預金の創設などを含めて財政の健全性を最優先に施策を実施することで臨機に対応できるように準備していく必要があります。頑張りどころが続きますので、健康管理には十分に気を付けてください。

このようにコロナ禍への対応が続く中で、さらに介護報酬が改定されたことに伴って科学的な知見に基づく介護の実践が当たり前となる中、事業環境は厳しさを増しています。

これまで以上に法人単位での取り組みを強化し、全職員が一丸となって取り組むテーマや、情報共有の場の創出なども取り組んでいきたいと考えております。

具体的には、執行役員で構成する法人経営戦略会議とは別に、各事業所の施設長等が一堂に会する法人事業運営会議の創出や、令和3年度介護報酬改定の柱でもある科学的介護・自立支援介護の実践に向けた共同研究の場の創出などを含め、階層別の社会的取り組みの実践と協働の場や、新たなチャレンジを推進する場の創出に向けた準備を加速したいと思っています。特に、こうした場を作る狙いは「良いふりかえり」を組織文化にしたいという願いがあるからなのですが、聞きかじりの知識で恐縮ですが、ある方からこんな話を聞いたことがあります。「精緻化・構造化」と「自覚化」という2つの視点から「ふりかえり」の重要性を述べられたのですが、「人が体験したことや学んだことは、本当は繋がりがあって関係が深いはずなのに、意識しないとそれぞれがバラバラになってしまう。体験したことや学んだことを構造化するため、そして精緻化するためには「ふりかえり」をすることが重要だ」ということでした。

当法人で学んだことや体験したことは自身の中で安定し、その後に活用できる材料に繋がるはずですが、やらされ仕事というスタンスは生き生きとした生活や仕事に繋がりません。良いふりかえりを積み上げて、自分自身の力の高まりを実感していただき、法人の力を高めていただければと願っております。

さて、私たち社会福祉法人は、他の法人格とは異なり、社会福祉法に基づいて地域における公益的取り組みが義務化されています。今般のコロナ禍によって、小さなお子さんに十分な食事を与えられないような生活困窮者世帯や、障がい者の雇用の場の減少などが増えており、こうした課題を解決していく手立てを考え実践していくことは、私たちの使命であるといえます。

法人では、このたび、就労場所を失った障がい者の方や、特別支援学校の卒業後の就労先に困っている方々からの声にこたえる形で、八王子市において障がい者（身体障がい・精神障がい・知的障がい）向けの就労継続支援A型の事業所「ワゲンの森 八王子」を設置し、ワゲングループ各施設の清掃作業や、環境整備業務、ペーパーレス化に向けた画像デジタル化業務、ワゲングループへの寄付者への返礼品づくりなどを行っていくことと致しました。

令和2年度11月末から事前準備を開始した当事業は、施設の建設が完了する令和4年4月に事業認可を受ける予定です。この事業は、今後の障がい者支援事業の窓口として機能するだけでなく、施設設備を活用した地域における公益的取り組みの実践場所として、生活困窮者世帯向けの子ども食堂の実施や、引きこもりからの社会参加支援などの実施を含め、ワゲングループの様々な活動や情報を発信する場としても活用していく予定です。皆さんの担当されている本来業務の他の時間を活用して、こうした社会活動（地域における公益的取り組み）への参加をご希望頂ける方がいらしたら、是非お声がけください。

# 法人コロナウイルス連携チームの取り組み



総合相模更生病院  
院長/法人事業本部長

**松本 豊**

法人の全職員の皆様が、現在の新型コロナウイルス感染症禍において、日々冷静に、そして積極的に各々の業務に向かい合っていることに、心より敬意を表するとともに誇りに思っております。

法人コロナウイルス連携チームの取り組みとしては、ワゲン療育病院院長竹、ワゲン新横浜、相陽台ホーム、総合相模更生病院の感染対策を担当している、主だった職員による月例の会議により、情報の発信と共有を行っています。より科学的に精度の高い情報の咀嚼、新型コロナウイルス感染症の現状の把握と対策の検討が主なものとなります。そして第3波に見舞われているこの冬については、法人の職員が濃厚接触者あるいは感染者となった場合の具体的な対応策について、法人各事業所で共通の認識を持つことにより、有事の際には効果が科学的に裏付けられている対応を冷静にとるべき準備を進めて参りました。

総合相模更生病院にて、2020年2月に新型コロナウイルス感染症の患者さんの救急搬送を受け入れて以来（入院後のPCR検査にて陽性が判明、来院時は新型コロナウイルス感染症の疑いを否定し得ずとして受け入れ）、秋口には市内医療機関でのクラスター感染により発生し

た患者さんの受け入れを行い、引き続き近隣高齢者施設あるいは在宅からの患者さんの入院受け入れを行っております。実際に入院患者さんに対応している経験から得られたことを法人内で共有することは、それぞれの施設に於ける自信と安心、更には安全につながると考えます。当院としては、いまだ未知の部分が多い新型コロナウイルス感染症について、今まで通り真摯にそして決して慢心すること無く取り組んでいこうと思っておりますし、引き続き法人全体を牽引して参りたいと思っております。

## プリコラージュという視点で、危機管理を考える

プリコラージュとはフランスの人類学者レヴィ=ストロースの言葉で、今ある能力をそのまま最大限に発揮できる場面、局面で人を使うことで、「必要な素材が無くても手近にあるもので間に合わせる能力」「あり合わせを集めて問題を解決する能力」を示しているとされます。もともと人間の組織は「あり合わせ」の集合体であるとし、それぞれが長所短所を持ったデコボコした人ばかりであり、リーダーはそれをプリコラージュすべきとの考えを提唱しています。一般的に組織は個人に押し並べて全ての能力を高めよと押し付けがちですが、それは賢明なやり方ではないと指摘をしています。

私達が医療従事者として、あるいは人間として各々に、それ相応に成長していく努力を継続していくことが最終的に組織の実力を高めると考えられます。その上でコロナ禍という危機を成長の機会とし、糧として行きたいと思っています。しかし、従来の業務に加えて新型コロナウイルス感染症に対応するという事は、組織における大変な業務量の増大で有り現実的に対応していくにはまさしく、プリコラージュという視点が平時にも増して必要になると考えます。つまり、限られた人員で、限られた情報により現実に対応していかなければなりません。人が足りないから対応できません。感染症は恐ろしくて関わりたくないから対応できません。情報が少ないので対応できません。それでは、危機管理は困難と言わざるを得ません。各々の職員の長所あるいは短所、得意なこと、性格を見極め職責を分担して頂き、最終的に全ての職員が同じ方向を向いて一丸となって目の前に有る危機に挑んでいくことを最終的な形としての目標にしています。今まさに法人コロナウイルス連携チームとしての力を勘案してみると、誰もが自然に意識することなく最終形に向かいつつあるように感じます。

このコロナ禍が終息するまでにはまだ時間がかかりそうです。しかしながら、最前線で努力を続ける法人の全ての仲間と共に力を合わせて、この危機を乗り越えて行きたいと思っております。私にできる全てのことに全力で向き合っていく覚悟です。

最近のキャロルちゃん



## 法人軽費削減チームの取り組み



総合相模更生病院  
事務長/法人本部事務局長

**島田 靖彦**

かねてより座間理事長から法人内連携の充実を図りたいとのご意向を受け、去る令和2年9月に第1回目となる「経費削減チーム連携会議」が行われました。

参加者は、総合相模更生病院：松本院長・島田事務長・有馬事務長補佐・安藤総務課長、ワゲン新横浜：袈裟丸課長・堀池主任、相陽台ホーム：牟田口課長・村田主任、ワゲン療育病院長竹：北島主任・岩本参与、望星サイエンス(株)：松尾様の計11名でキックオフとなった。会議の冒頭に松本院長から挨拶があり、「本会議のメインテーマである‘経費削減’について定期的に連携を図り、設備機器・修繕・物品購入等の必要な投資は行うが、法人内で情報共有し適切に執行していくこと、スケールメリットを生かし法人を窓口として1本化をできる部分は進めていくこと、島田事務長が法人業務執行役員の1人として経営会議へ報告し決定権を持つこと」等が述べられました。

まず初めに、法人全体のオムツ購入経費の削減に取り組みました。現時点において、2病院（更生、長竹）及び2特養（相陽台、新横浜）が使用しているオムツメーカーが同一業者であり、各事業所でのオムツに係る諸問題もあった。ここで法人で一本化して契約することでの価格交渉におけるスケールメリットが大いに期待が出来ることとなり、早速各事業所でのヒアリング及び新規参入候補業者のサンプル使用についての調整をスタートした。今後のスケジュールについては、各事業所でワンフロアでのサンプル使用やケア状況のヒアリング、要望調査、オムツの交換回数とアイテム選択等を2021年1月～3月で行い、3月末の定期経費削減チーム会議にて正式採用のジャッジをし、最終的には15%～20%の経費削減を目標とし活動を進めています。

また、建物の長期修繕計画も検討を始め、総合相模更生病院及びワゲン新横浜の老朽化した空調設備の調査を専門家に依頼し、優先順位を決めて高額な経費支出を如何に無駄なく投資するか検討を進めています。電気料金の削減についても照明のLED化を検討し、総合相模更生病院では4社の提案を受け方針を決定しました。2021年1月の経営会議で承認を受け、2020年度内に入れ替え工事を完了し、新年度からLED化をスタートする予定です。

昨年からのコロナ禍において、病院・特養における組織運営は依然厳しい状況が続きます。組織としてこれからも存続し、社会貢献を継続していくためにも収入増加策と同時に支出削減策のセットで活動していかなければなりません。金額の大小ではなく、無駄を省き効率の良い事業活動を常に心がけなければならないと思います。この経費削減チームメンバーだけでなく、全事業所の職員の皆様のご提案を心からお待ちしています。皆で総力戦でワンチームで頑張っていきましょう。どうぞよろしくお願い申し上げます。



会議の様子



経費削減チームメンバー

## 各事業所・新人研修の取り組み

### 相陽台ホーム

相陽台ホームでは、10月5日に新入職員6ヶ月フォローアップ研修として、施設長との懇談会を実施しました。入職時に立てた目標の振り返り、今後どのような心構えで法人職員として働いていくかを、いつもより少し豪華な昼食を食べながら、施設長と共有しました。

新入職員には有意義な時間になったと思います。



### ワゲン新横浜

コロナ禍でも出来る事・新しい研修の形を模索し、ワゲン新横浜新入職員4名は、更生病院での研修（一部）参加と、法人他施設見学ツアーを行ないました。

相陽台ホームでは施設見学や意見交換を行ない、両日短時間ではありましたが、他施設職員との交流や法人内の繋がりを感じる事が出来ました。



### 総合相模更生病院

10月、午前中講義、午後はB棟屋上にてフラダンスを行いました。

フラダンスは、新横浜の職員の方も参加していただきました



### わげん保育園

わげん保育園に看板が設置されました。

看板のデザインは、現在勤務している保育士金沢奈都子様です。制作の経緯のお話を伺ったところ、「この建物の屋上園庭スペースがとても素敵であり、見上げると（青空）（飛行機も飛んでいる）（虹もかかる）又、かわいいと思っていた、当法人イメージキャラクターのわげんちゃんといいちゃんを皆にもっと知ってもらいたいのだからこれらを表現しようと思いました」とコメントをいただきました。とても素敵な看板制作ありがとうございました。



## 法人内事業所コロナウイルスへの取り組み

### 総合相模更生病院

昨年2月より新型コロナウイルス感染症の患者様を受け入れ、現在は8名の患者様を受け入れられるように人員を調整しています。御高齢の患者様が多く、ケアにお時間がかかってしまいがちですが、院内感染を抑えられるよう防護には緊張感をもって行っています。また感染リスクの怖さだけが先にたたぬよう、患者様個々の発症時期を考慮し、発症からの日数や症状を踏まえた防護を考え看護にあたっています。

発熱外来の患者様も以前より増加していますが、病院入口トリアージ場所に体温自動測定ロボットを設置し、トリアージの効率化と患者様を和ませてくれる効果を期待しています。



### ワゲン新横浜

新型コロナウイルス感染症は拡大開始から約1年弱、終息の目途が立っていません。濃厚接触者など感染症疑いのある人を中心に行った検査では、依然として新型コロナウイルスの免疫を持っている方が限られているのが現状です。

比較的規模の大きいワゲンは4フロアで多くの長期入居者を抱えつつ、短期入居者も受け入れています。暗い情報が多い中で、明るく響いたのは福祉施設対象の研修での、「発症者のみで感染者が留められた事例が少なくない」ということでした。感染対策のゴールは1. 患者利用者を守ること2. 職員と利用者を守ること3. 可能な限り費用対効果の高い豊富で1. 2を達成することです。その為に、マニュアル作成は当然の事ながら職場での接触回避の飛沫防止対策、窓越し面会やリモート業務体制整備、更に入館時の自動検温測定器を玄関に設置する等早期から取り組んでいます。

「皆がルールを守り同じように対策を行うこと」が重要かつ基本です。感染委員会では、感染時の対応フローチャート作製と、10月からは看護師がフロアをラウンドし現状把握と対策に努めています。職員一丸となり、夜の明けぬ朝はないと信じ頑張っています。



### 相陽台ホーム

“持ち込まない” “蔓延させない” を基本に機会あるごとに感染症委員とし、職員に発信してきました。第1に考えたことは、体調不良時は報告し休めるお互い様の環境づくりです。また感染は宿主・病原菌・感染経路この3つの悪循環で蔓延していくわけですので新型でも基本は同じ。清潔・不潔を見極め、基本を忠実に実施し利用者・入居者が気持ちのよい環境で過ごせることがモットーと発信しています。「訪問者をもっとわかるようにし、ロビー内に入る人数を制限したい」総務の方の提案で施設に入る方法を検討しました。生活支援課係長より「職場内感染は食事の多い」寮母室での食事は2名までとする張り紙を作成します。生活支援課課長は「入居者の手洗いが無理なら自動アルコール機を設置します」。職員それぞれが自分の業務の中で、持ち込まない・蔓延させないを考えてくれています。そこが一番の力です。

長期化になり職員のストレスもピークになっています。春になり緑多い地の利を生かし入居者・利用者と職員も外出し、互いが癒されるレクリエーションが出来ることが今の目標です。



### ワゲン療育病院長竹

最近『「障害者施設」「老人ホーム」でクラスターが発生しました。感染経路は不明。職員が新型コロナウイルス感染症に罹患し、入所者や同僚のPCR検査をしたところ無症状でPCR検査陽性者が出ました。』というニュースを聞いた時に、「明日は我が身」と考える日々です。施設長からも新型コロナウイルス感染症が発生しないのは「奇跡」に近いとも言われています。すべての職員は自分が感染源になっているかもしれないという危機感を持って働いています。感染対策委員会としても、情報や知識の共有に努め、正しい感染防護具の装着方法など研修会を開催して職員が理解して行えるようにしています。現在、神奈川県重症心身障害児者関係施設での情報共有を行い、濃厚接触者にならないように、マスクと手洗いの徹底に加えて、全職員の「ゴーグル」の着用を検討しています。



# 『あの人 この人 こんな人』

わげん便りシリーズ企画といたしまして、各法人の人物紹介を行いたいと思います。

相陽台ホーム サービス提供責任者 鈴木妙子 様

## 1. 今の職業に就いた理由を教えてください。

20年程前は自営で日々忙しい生活を送っていましたが、平成13年に実母が他界してしまい親一人子一人で育った私は孤独感と喪失感で押しつぶされる寸前でした。

当初 入院して居りましたスタッフの方々や医師の手厚い医療・看護を受け「この方たちに、どの様にお返しをしたら良いのか？」と考えた結果が「介護を目指そう」と決心が付きこの業界に足を踏み入れました。



## 2. 趣味を教えてください。

ショッピングと家内外の装飾です。

ショッピングでは買わないのは無理で、欲しい物は我慢が出来ません。必ず手にしないとストレスが溜まってしまい体調が優れなくなります。

家内外装飾は年6回程 季節やイベント事に変えており、疲れて帰宅した私のビタミン剤となり元気を与えてくれます。

## 3. 今後の抱負を教えてください。

私は相陽台愛に、又訪問介護職にも愛が溢れております。在宅介護職員として『地域密着・介護難民を出さない・できない介護技術は無い・依頼された介護は基本断らない』を目指し20年取り組んでまいりました。

目標は未だ途中では有りますが、「相模原南区に相陽台ホームここにあり！！」と周りの方から言ってもらえる様に日々精進して行きたいと思って居ます。

## 4. 法人職員に向けて一言お願いします。

人は十人十色・千差万別です。1、人を好きになって下さい。 2、仕事を楽しんで下さい。 3、人の意見は参考にし「自分なり」を見つけて下さい。4、自分の事を理解し、叱咤激励をいつでも言ってくれる人を職場で見つけて下さい。5、身体を労わって下さい。

結果 知らないうちに時が流れ、知らないうちに実力が付き、知らないうちに自分が絶対的存在(人材)で居るはずですよ！

## 編集後記

昨年は、コロナで始まり、コロナで終わる…当法人においても常に緊張感のある一年でした。

法人広報としても、コロナ禍において、思うような活動が出来ず非常に歯痒い一年でした。

まだまだ、新型コロナウイルスの終息も見込めない状況ではありますが、今年は少しでも明るい一年になれるよう、皆様に少しでも明るい話題を提供できるよう、広報一同頑張っていきたいと思っております。本年もよろしくお願い致します。

2021.04.Vol.18

■編集：ワゲン福祉会 広報 ■お問い合わせ先：〒252-5225 神奈川県相模原市中央区小山3429

■mail：wagengkouho@wagen.or.jp

※わげん便りは社会福祉法人 ワゲン福祉会で出版されています。